



2025年2月期 第3四半期決算

イオン株式会社

2025年1月10日

- 営業収益13期連続過去最高を達成
- 変化する消費者ニーズや異常気象に対し、現場レベルでの迅速な対応で販売の改善基調に貢献
- 年末年始商戦は好調なトレンドが継続、業績改善の流れを通期業績につなげる見通し

連結業績

（億円）

3Q（9カ月累計）

	当期実績	前年実績	対前年 同期増減率	対前年 同期増減差
営業収益	74,705	70,258	6.3%	+4,447
営業利益	1,175	1,428	-17.7%	▲252
経常利益	1,020	1,331	-23.3%	▲310
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-156	183	-	▲340

- 記録的な高温による秋冬物や季節商材の販売不振が収益性に影響し、第3四半期は増収減益
- 価格戦略強化により集客力向上と売上拡大を実現、DX推進により生産性の向上とコスト抑制に効果
- 利益構成比が高い12月を前に収益構造は改善、通期の利益確保に向け大きな成果

連結業績

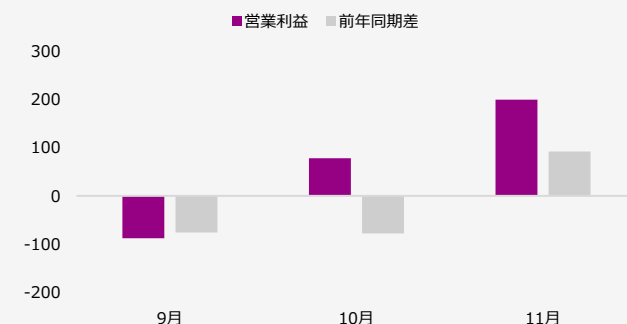
（億円）

3Q（3カ月）

	当期実績	前年実績	対前年 同期増減率	対前年 同期増減差
営業収益	24,711	23,145	+6.8%	+1,566
営業利益	189	251	-24.7%	▲62
経常利益	122	212	-42.3%	▲89
親会社株主に帰属 する四半期純利益	-211	-49	—	▲161

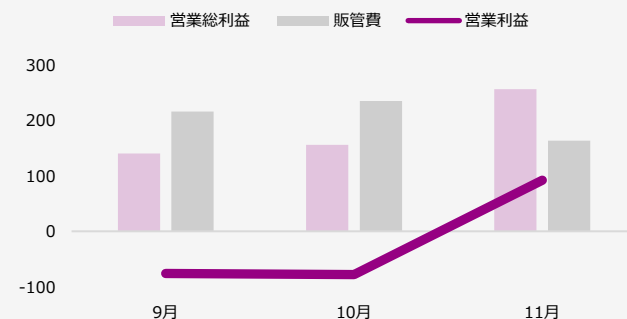
営業利益額と前年差推移

（億円）

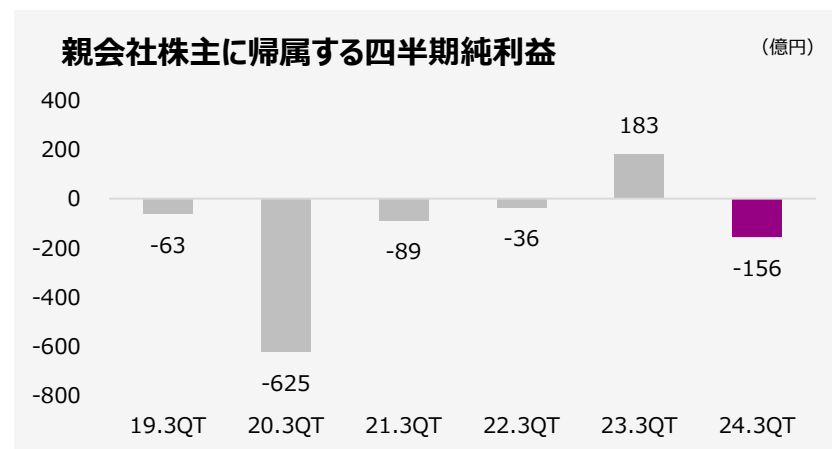
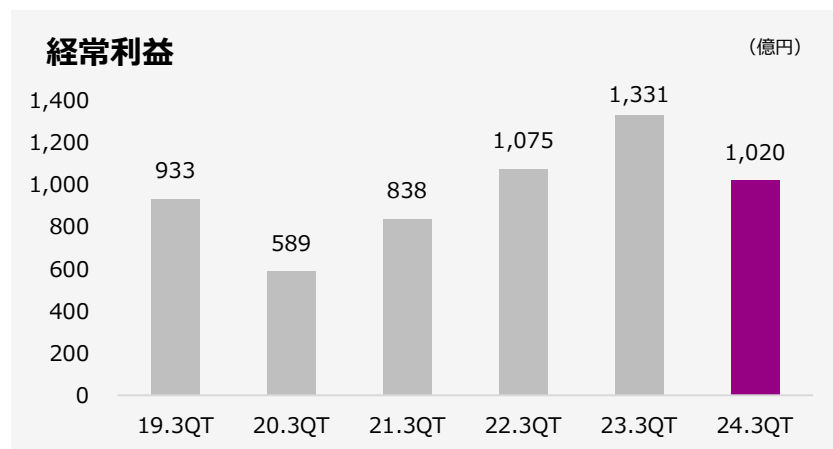
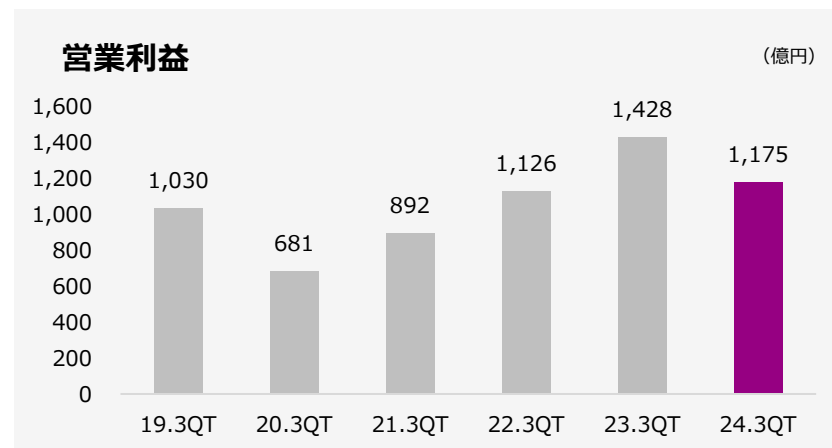
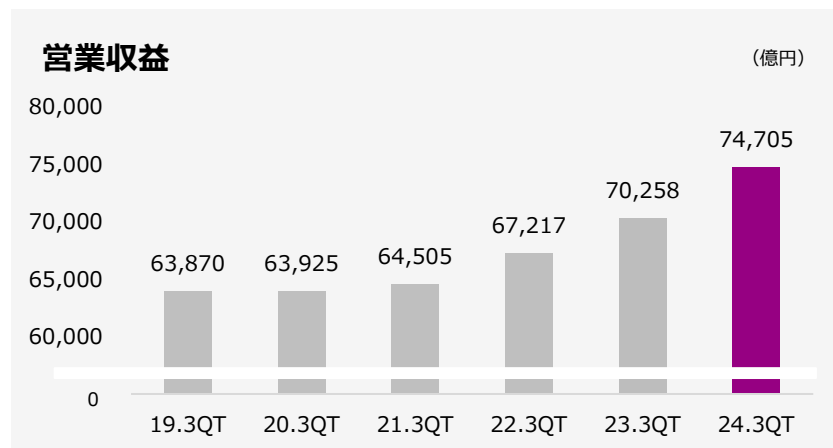


営業損益要因前年差

（億円）



- ・ 営業収益は過去最高、営業利益は前期の過去最高に次ぐ水準
- ・ 特別利益の消失と店舗閉店損失や減損損失の前倒しでの計上が四半期純利益に影響



- ・ 営業収益：全事業が増収
- ・ 営業利益：国内が回復基調にある総合金融、ディベロッパー、サービス・専門店事業が増益

セグメント別業績

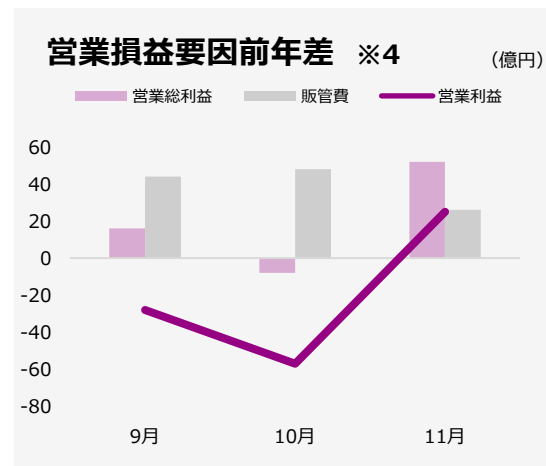
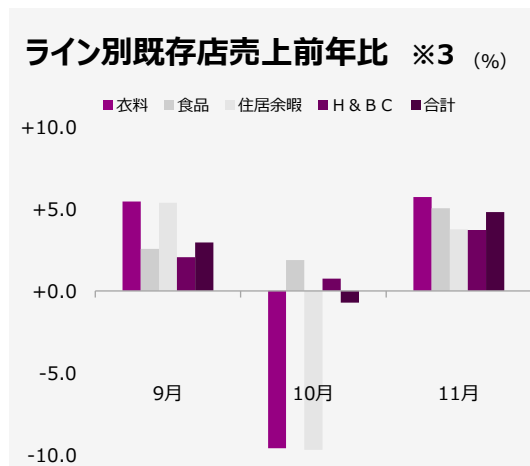
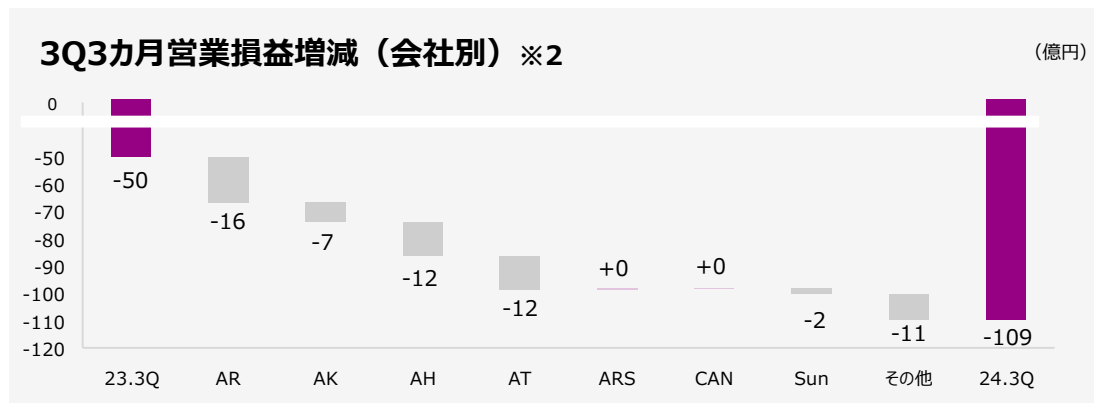
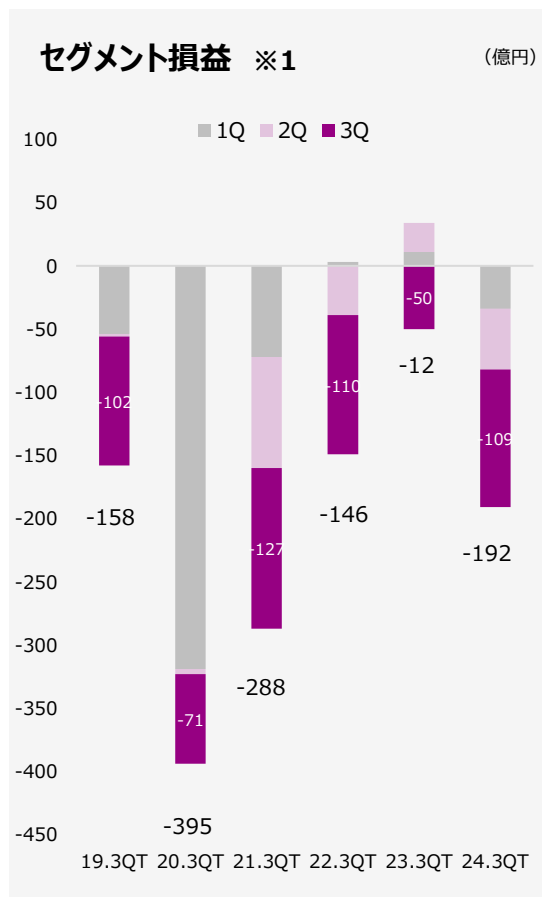
（億円，％）

3Q（9カ月累計）

		営業収益		営業利益	
		実績	対前年同期 増減率	実績	対前年同期 増減差
報告 セグ メン ト	GMS事業	26,161	+2.6%	-192	-177
	SM事業	22,443	+10.8%	118	-100
	DS事業	3,050	+1.8%	47	-13
	ヘルス&ウェルネス事業	9,882	+8.0%	226	-78
	総合金融事業	3,868	+8.9%	383	+111
	ディベロッパー事業	3,676	+5.9%	386	+40
	サービス・専門店事業	5,434	+1.7%	164	+41
	国際事業	4,093	+7.6%	58	-12
その他		494	+15.6%	-73	-4
調整額		-4,398	-	56	-59
連結合計		74,705	+6.3%	1,175	-252

セグメント別実績の概況

- 9月、10月の記録的な高温による秋冬物需要低迷が収益に打撃、第3四半期は減益に
- 11月以降、価格戦略とブラックフライデーが奏功し、売上・客数が大幅改善、業績回復の兆し
- 通期業績回復への手応え、第4四半期・年末年始商戦での挽回を期待

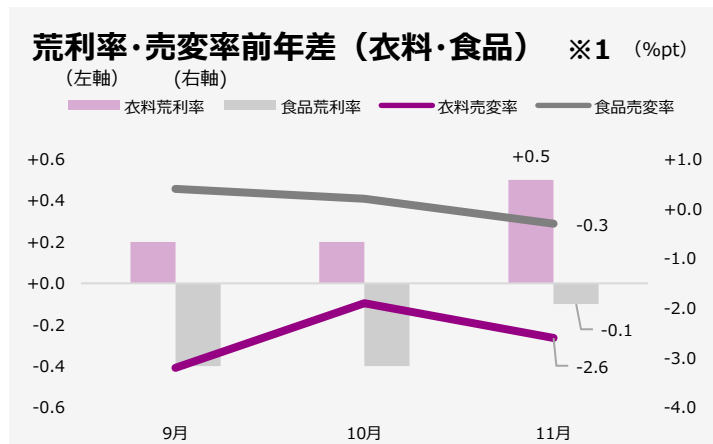
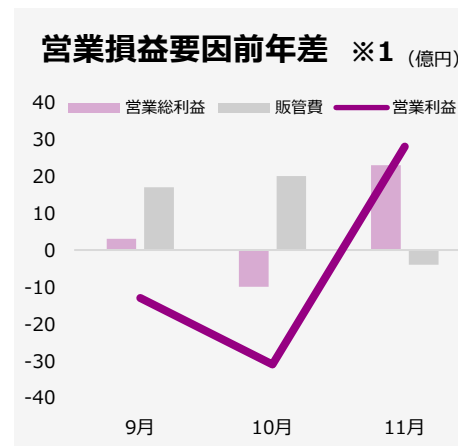
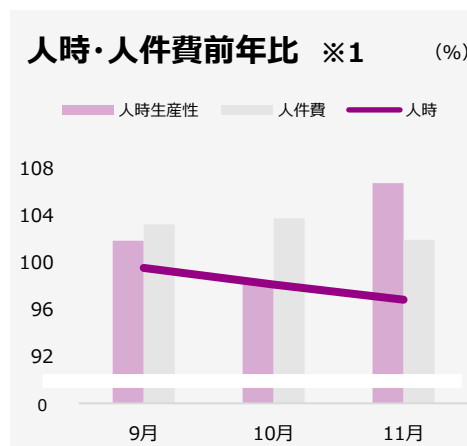
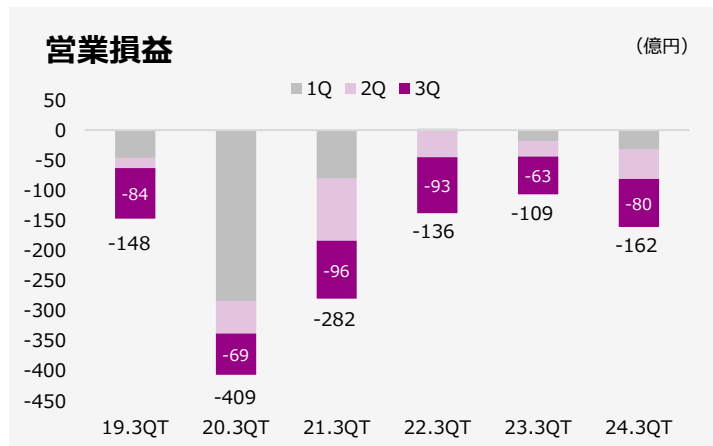


※1 過年度実績はセグメント変更会社を調整

※2 AR:イオンリテール単体、AK:イオン九州連結、AH:イオン北海道単体、AT:イオン東北単体、ARS:イオンリテールストア(旧ダイエー)、CAN:キャンドゥ連結(セグメント変更)、Sun:サンデー単体

※3 管理会計 GMS事業主要14社 ※4 管理会計

- ・ 高温の影響で9月・10月は苦戦も、11月に業績回復。販促強化が奏功し、4Qの収益拡大に弾み
- ・ DXによる人時コントロール強化で生産性向上とコスト抑制を実現。効率化施策が奏功し収益性が向上
- ・ 組織改革と現場力強化でさらなる収益改善を推進



中計・構造改革の進捗、コスト上昇影響 3Q累計/3Q

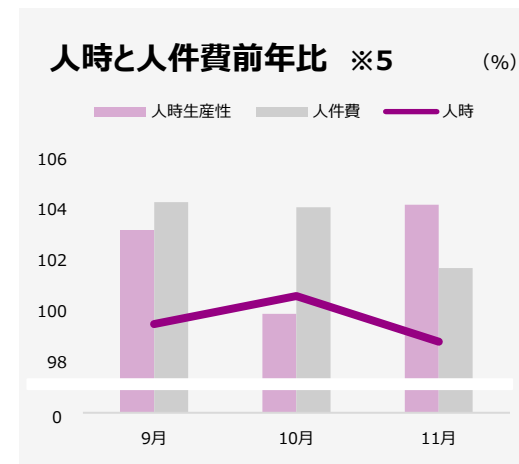
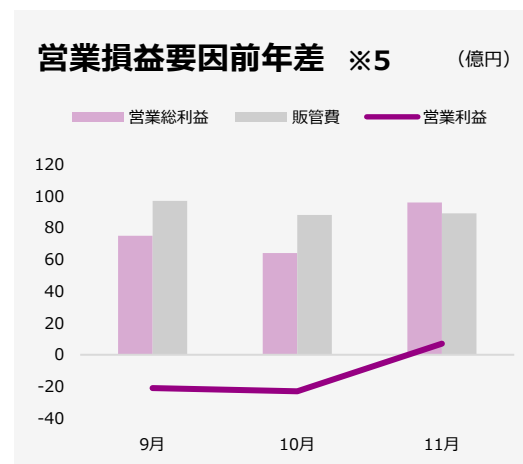
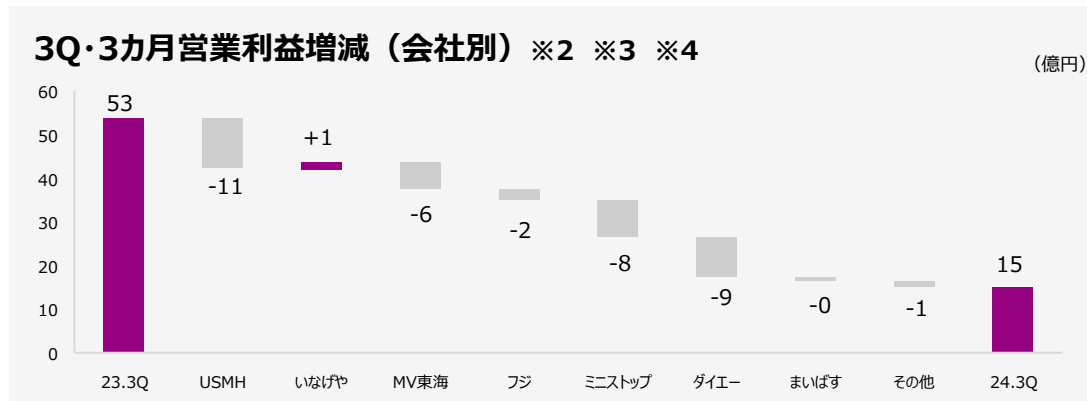
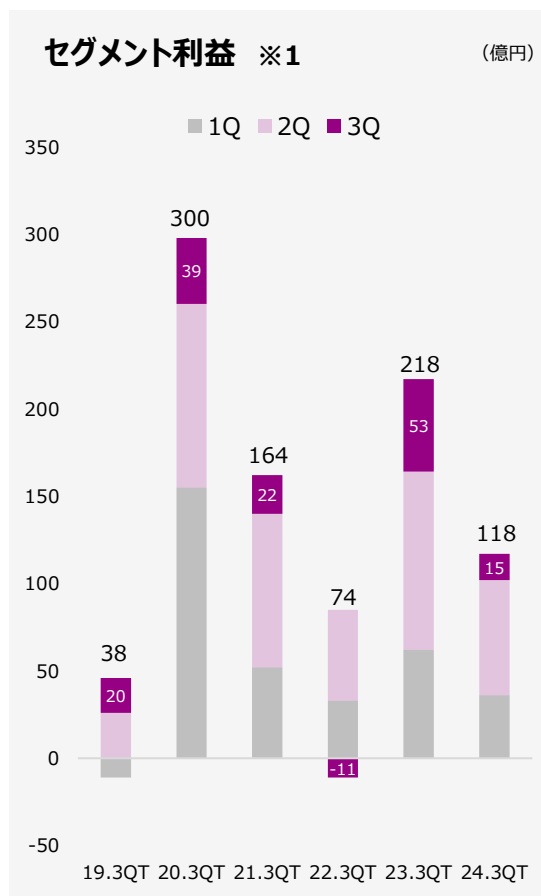
既存店食品客数 前年同期比	101.5%/101.3%	トップバリュ売上 前年同期比	103.1%/101.4%
在庫 ※2 前期末増減	1,285億円 +57億円	人時生産性 前年同期比	102.4%/102.0%
テナント収入 前年同期差	+5億円/▲0億円	賃上げ影響 前年同期差 ※4	+79億円/+26億円
EC事業売上 前年同期比	108.2%/101.0%	水光熱費 前年同期差	▲1億円/+14億円
レジゴー	251店舗	AIワーク MaIボード ※5	364店舗 328店舗
AIオーダー ※3	351店舗	AIカカク	デリカ水産畜産 350店舗 デイリー 323店舗

イオンリテール 373店舗 2024年11月末時点

※1 管理会計 ※2 トップバリュコレクションへの移管影響あり

※3 デイリー11部門、デリカ2部門 ※4 最低賃金改定影響を含む ※5 デジタルサイネージで情報共有を行うツール

- ・ 地域特性に応じた店舗運営と価格訴求に注力するも営業減益
- ・ DX投資効果による人時コントロールや店舗業務の効率化で販管費を抑制し生産性が向上
- ・ 11月は価格強化により客数・売上が増加、販管費削減効果も加わり営業利益が増益に転じる



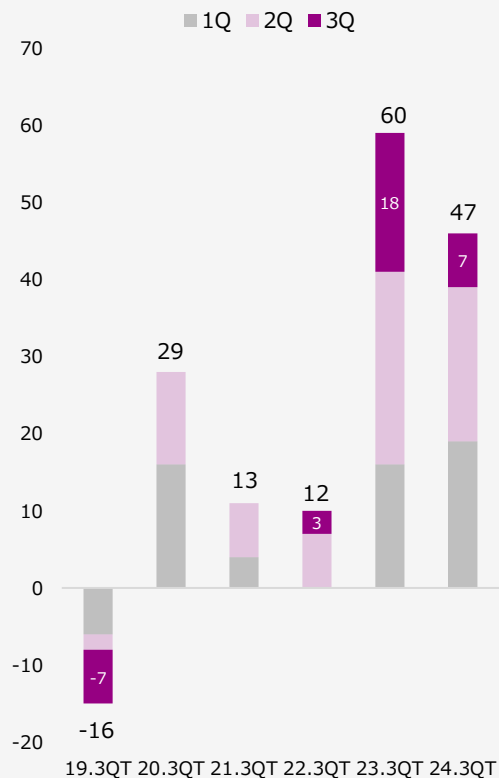
※1 2019、2020年度実績は会社のセグメント移動を調整 ※2 まいばす：まいばすけっと ※3 フジ、U.S.M.H、MV東海、ミニストップは連結業績。いなげや、ダイエー、まいばすけittoは単体業績

※4 いなげやは連結に伴う当四半期の取り込み分(2024年7月～9月)を表示 ※5 管理会計

- 原材料費や物流費の増加、競争環境の激化に伴うコスト構造の圧迫で減益
- 売上は、価格競争力を高め、節約志向に応える施策が奏功し、生鮮食品と大容量商品の需要を捉え堅調
- 屋号統一やディスカウント業態のモデル構築を推進し、競争力と効率性の向上を図る

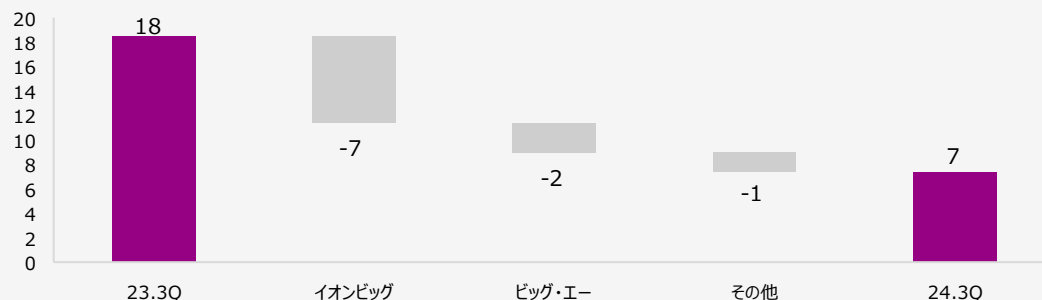
セグメント利益

(億円)



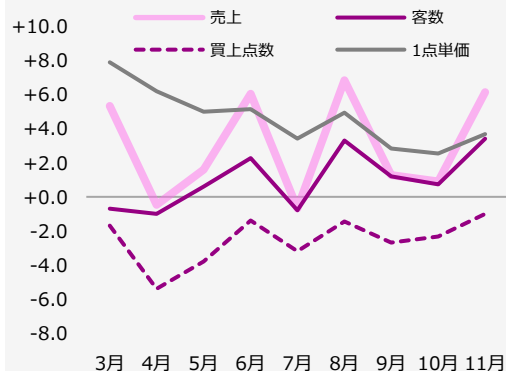
3Q・3カ月営業利益増減 (会社別)

(億円)



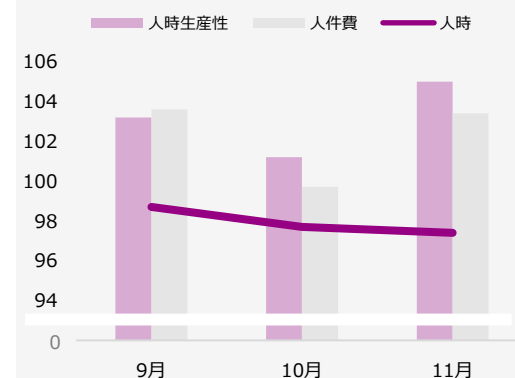
既存店売上等前年増減率

(%)



人時・人件費前年比 ※1

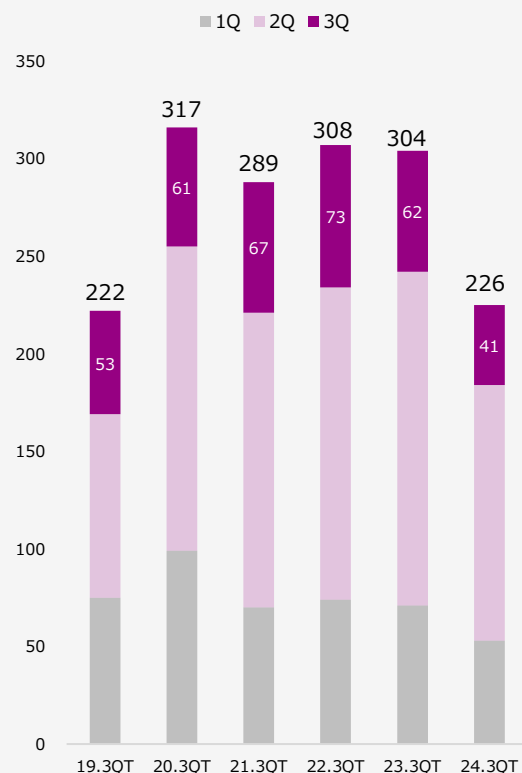
(%)



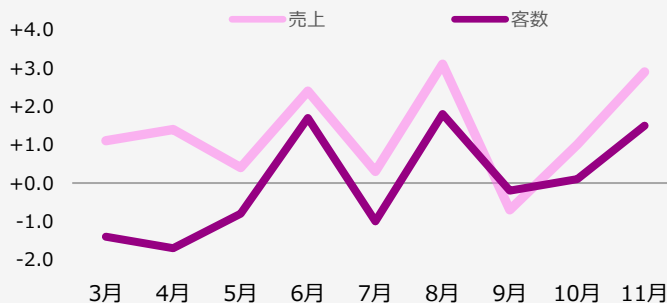
- ・ 季節品の不調やたばこ取扱い中止の影響を受け減益も、トップバリュやセルフ化粧品の品揃え拡充等に注力
- ・ 調剤併設店舗数の増加や調剤報酬改定の恩恵を受け、調剤部門の売上は堅調に推移
- ・ WAONポイントサービスを活用し、ウエルシアメンバー1,330万人を達成し客数増加に寄与

セグメント利益

(億円)



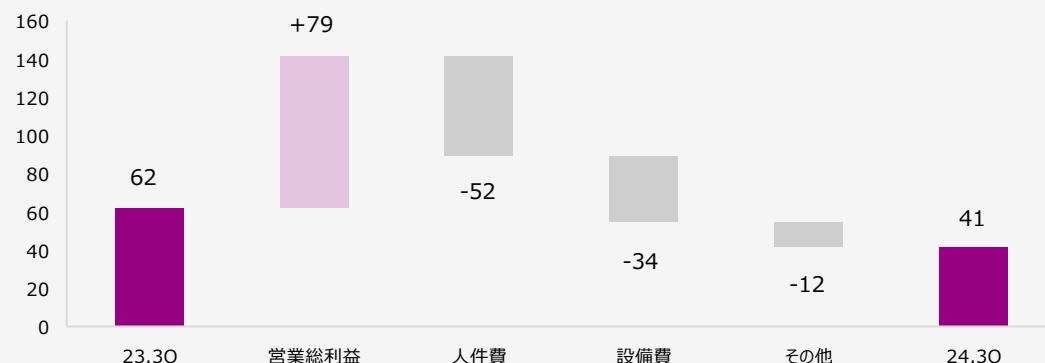
ウエルシアHD 既存店前年増減率推移・3Q累計全規模品目別前年同期比 (%)



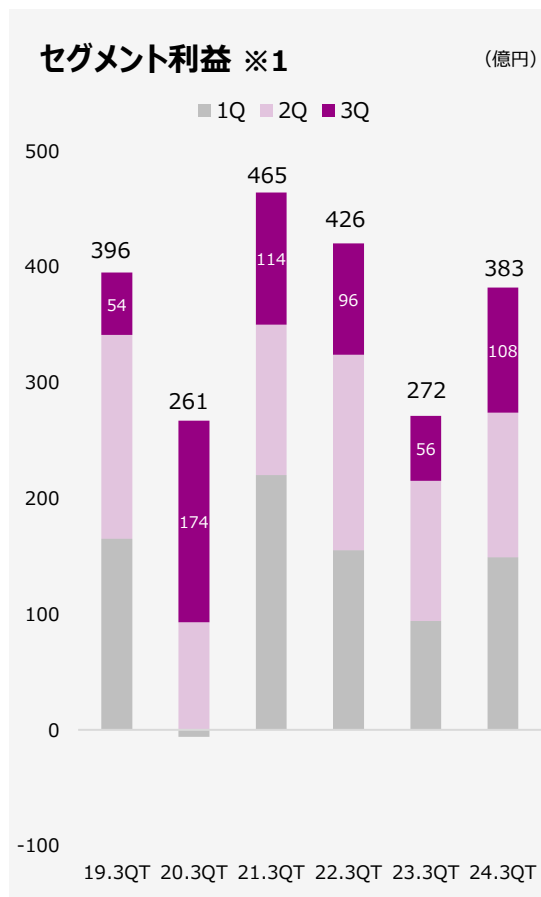
品目	前同比
医薬品	98.7
化粧品	105.4
家庭用雑貨	105.8
食品	107.7
その他	92.4
物販計	103.3
調剤	109.6
小計	104.6

3Q・3カ月営業利益増減要因

(億円)



- 国内のカード収益の順調な拡大と金融収益計上で大幅な増益達成
- 海外は、取扱高増加し3エリアともに営業収益は過去最高、デジタルバンク費用を除けばマレー圏も増益
- 国内外において高利回り営業債権残高は過去最高となり、資産収益性が向上



3Q・3か月イオンフィナンシャルサービス エリア別業績 (億円, %)

		国内	前同比	中華圏	前同比	メコン圏	前同比	マレー圏	前同比
営業利益	3Q	27	+49	24	118%	34	103%	19	76%
貸倒関連費用	3Q	88	141%	20	108%	80	101%	82	128%

各種取扱高、営業債権残高状況 3Q・9か月累計 ※3 (億円, %)

		取扱高	前同比	営業債権残高	期首差
国内	ショッピング	55,611	106%	14,760	+1,719
	キャッシング	2,868	100%	4,331	+208
海外	ショッピング	3,777	120%	1,558	+46
	キャッシング	1,434	131%	1,484	+38

※1 過年度実績はセグメント移動会社を調整

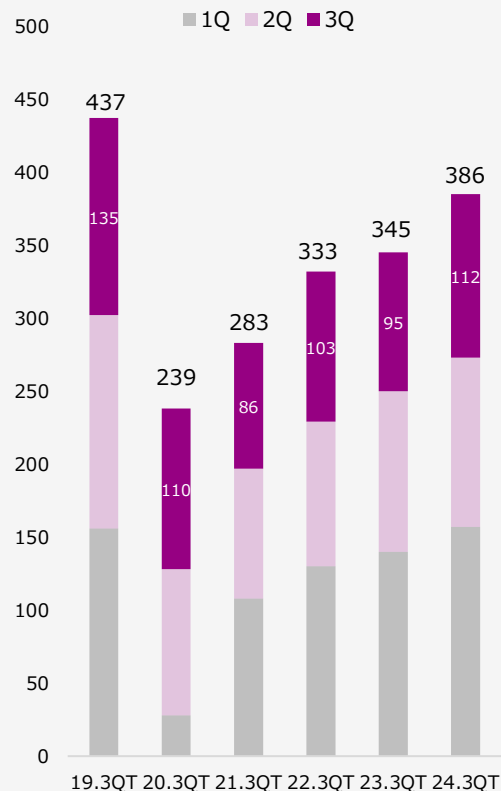
※2 AFS: イオンフィナンシャルサービス、AFS中華圏: 中国、香港、AFSメコン圏: ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、AFSマレー圏: マレーシア、インドネシア、フィリピン、インド

※3 営業債権残高は、債権流動化前

- 国内：既存モールの専門店売上・客数が好調、免税売上も約2倍に増加し増益
- 中国：消費を喚起する新たな大型セール企画「超級大旺日」では売上改善、低下する消費マインドに対応
- アセアン：ベトナムは季節行事イベント強化で専門店売上好調、インドネシアは空床改善で賃料収入拡大

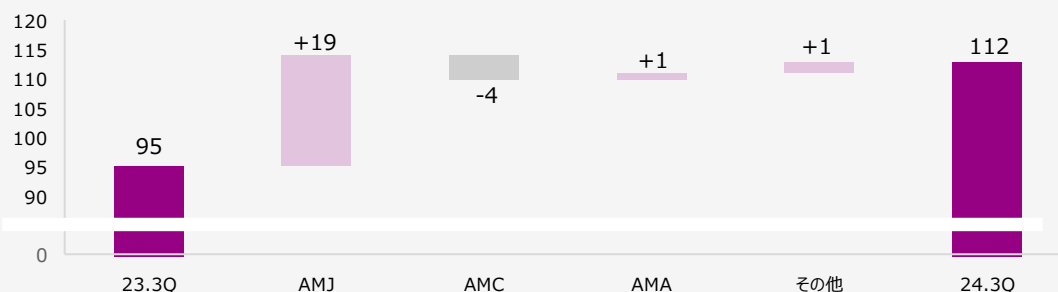
セグメント利益

(億円)



3Q・3カ月営業利益増減（会社別）※1

(億円)



3Q・3カ月モール専門店売上

既存モール・エリア別(%) 前同比

日本	106.2
中国	97.4
ベトナム	105.8
カンボジア	100.7
インドネシア ※2	109.8

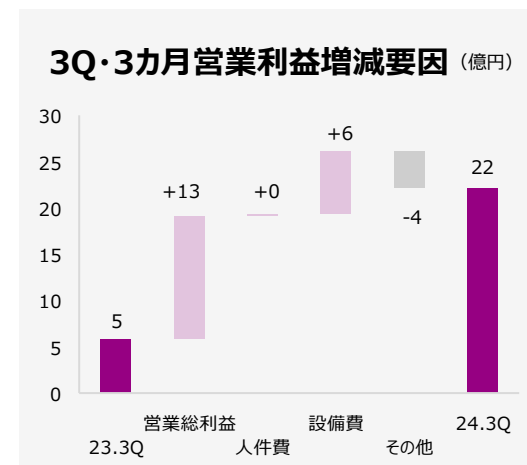
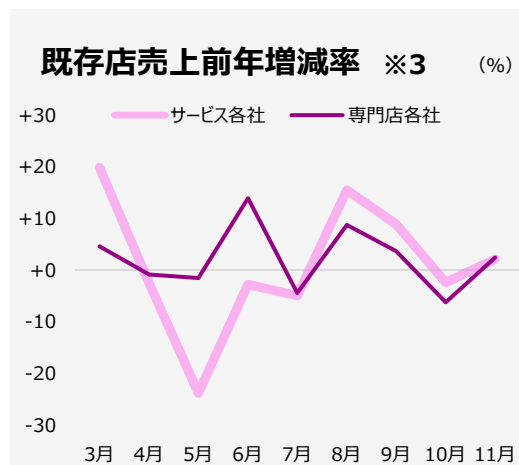
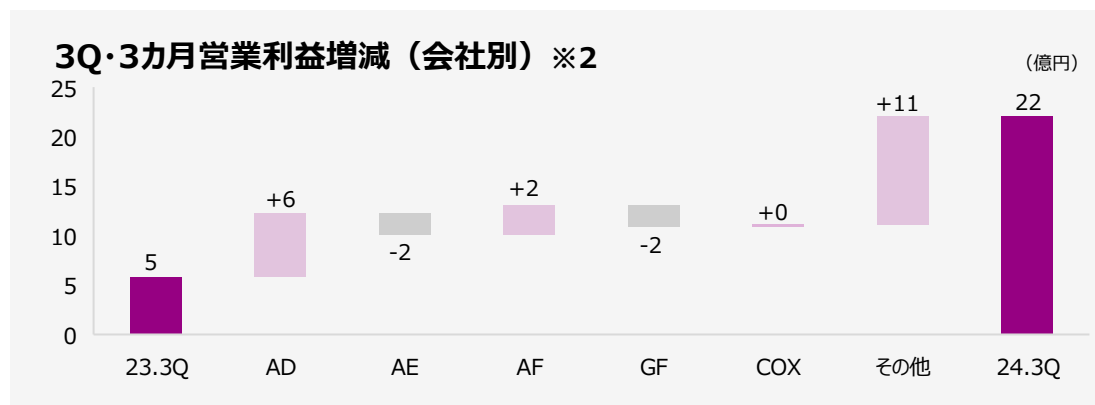
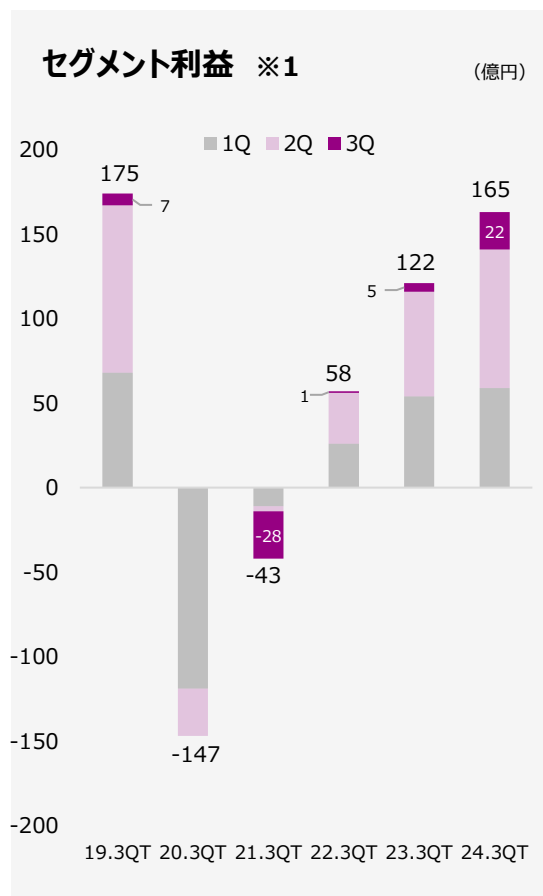
日本国内既存モール・業種別(%) 前同比

大型専門店	104.5
衣料品	102.9
服飾品	108.4
雑貨	107.4
飲食	108.9
アミューズメント・シネマ	105.8
サービス	105.3
中小型専門店小計	106.4
専門店合計	106.2

※1 AMJ:イオンモール国内セグメント, AMC:イオンモール中国セグメント, AMA:イオンモールアセアンセグメント

※2 インドネシアは既存モール来店客数

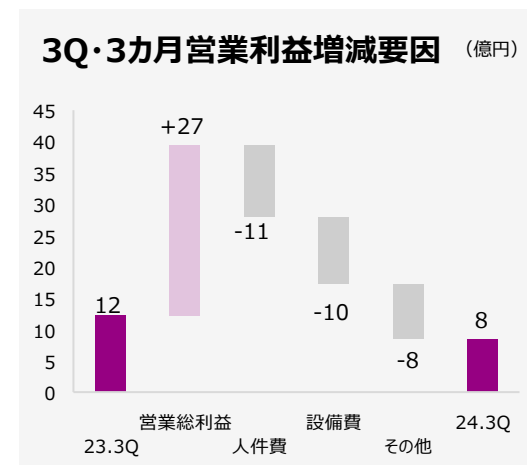
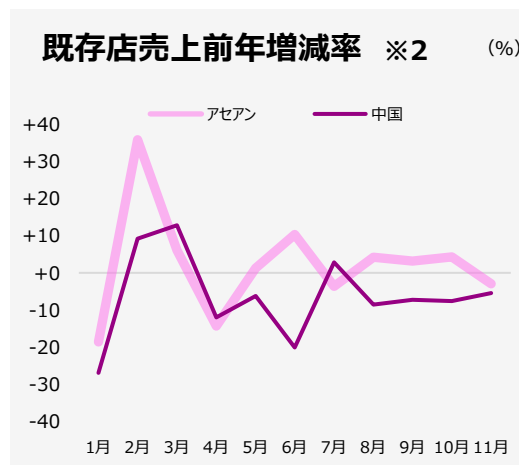
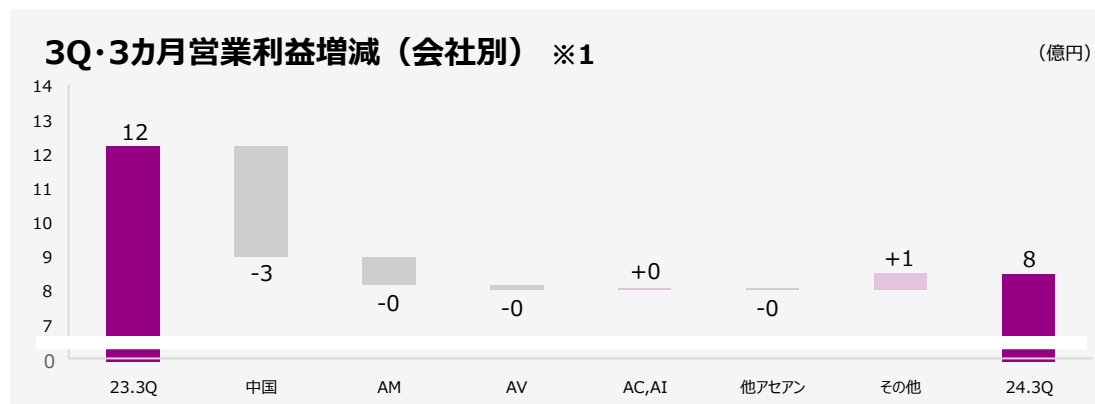
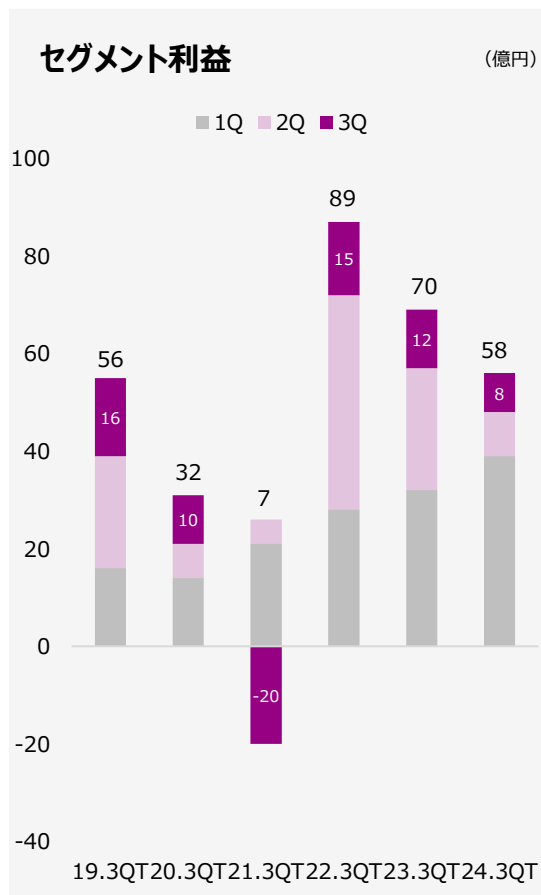
- ・ イオンデイライト：顧客内シェア拡大と新規顧客開拓で増益。DXで施設管理を効率化し、収益基盤を強化
- ・ イオンファンタジー：主要部門の好調と「プレイグラウンド」の成功、人件費増加もその他販管費抑制で増益
- ・ コックス：ECや催事店舗の売上の嵩上げ、仕入れ原価の低減と為替リスク軽減により荒利率を維持し増益



※1 19年度実績はカジタク社影響除く、キャンドゥのGMS事業へ移動を調整 ※2 AD:イオンデイライト連結、AE:イオンエンターテイメント単体、AF:イオンファンタジー連結、GF:ジーフット連結、COX:コックス連結

※3 サービス各社 主要4社、専門店各社 主要7社

- 中国は営業減益が拡大、アセアンはやや弱含みの展開も3Q累計では増益
- 中国：マクロ経済の影響により地域によって業績に差。内陸部が好調で、沿岸部がやや苦戦
- アセアン：マレーシア・ベトナムでは既存店改装や入居率の向上を進め、季節商戦の販促強化で収益拡大

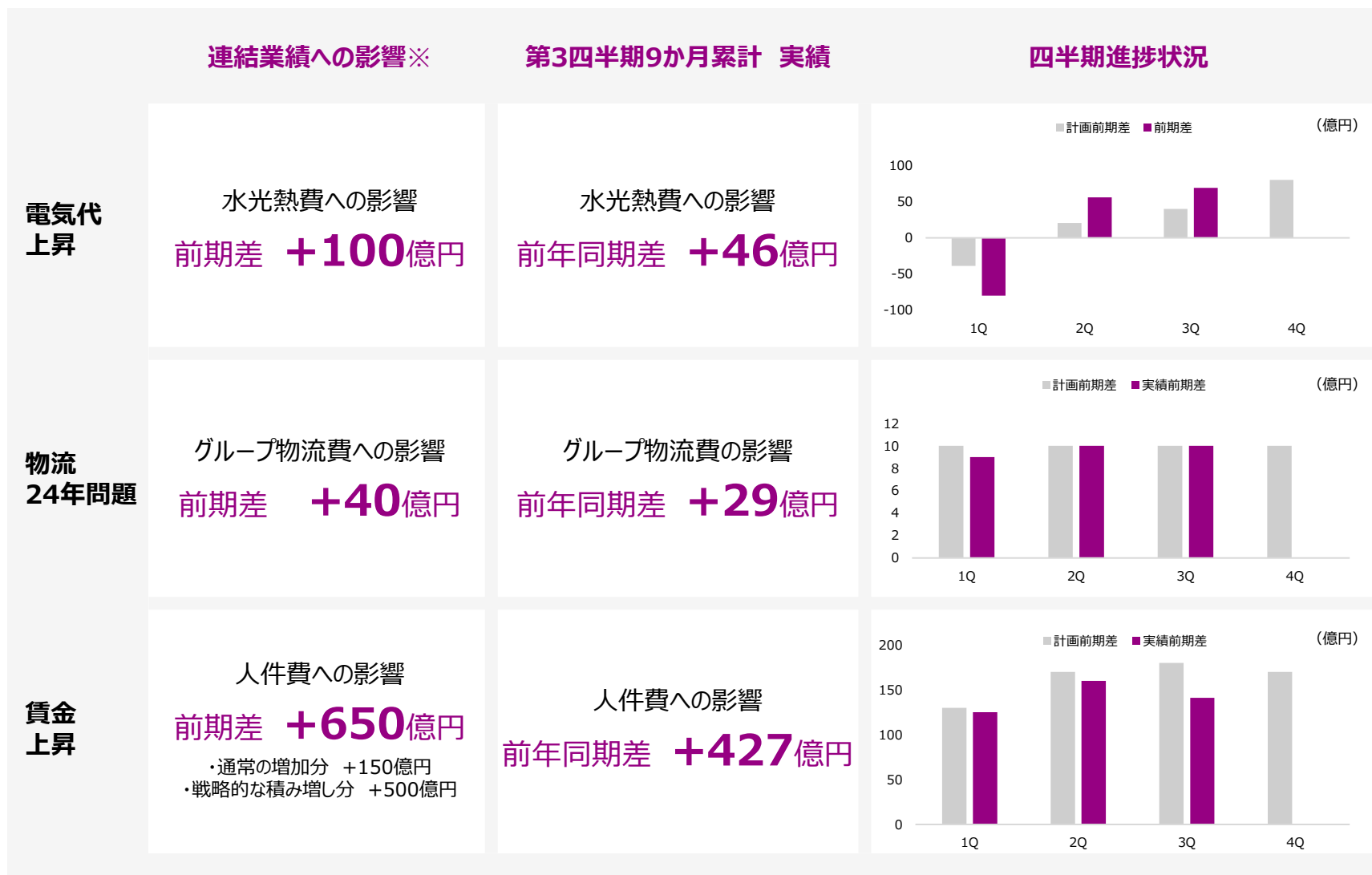


※1 中国:中国事業、AM:イオンマレーシア連結、AV:イオンベトナム、AC:イオンカンボジア、AI:イオンインドネシア、他アセアン:他のアセアン4社

※2 アセアン:イオンマレーシア、イオンビッグマレーシア、イオンタイランド、イオンベトナム、中国:イオン香港、イオン華東、青島イオン、広東イオン、北京イオン、イオン華南、イオン湖北

2024年度の見通し

24年度連結業績へのコスト上昇影響想定と進捗状況



※業績予想では、影響額と対策による効果額を見込んでいます

- 12月度、クリスマスは概ね想定通りの進捗、一方で年末年始の年間最大商戦は想定をやや上回る伸長
- モールが好調、集客効果によりモール内のGMS、サービス・専門店事業の各社も好調に推移
- GMS、SM、DSの食品が堅調、H&Wはインフルエンザ流行で医薬品・衛生用品が牽引

セグメント別同日既存店売上前年比 ※1

(%)

	12月度			1月度
	12/1-12/31 月度計	12/20-12/25 クリスマス	12/26-12/31 年末	1/1-1/2 年始
GMS	102.9	102.5	104.2	104.0
SM	102.9	104.9	102.2	103.4
DS	105.5	107.2	106.6	105.0
ヘルス&ウェルネス	104.0	106.6	108.9	97.5 ※2
サービス	102.1	102.5	110.7	111.8
専門店	96.8	95.3	104.2	92.0
ディベロッパー	105.7	102.2	112.3	104.8
中国	89.9	85.3	87.4	86.4
アセアン	100.3	111.7	104.8	110.8

※1 売上速報値 2025年1月8日時点 ※2 休業店舗が本年増加したことの影響があります。

- ・ 期初予想に変更なし。第3四半期は段階利益が想定線から下振れたが、第4四半期で巻き返し

(億円)					
	2024年度			2023年度	
	予想	前期比	前期差	3Q累計実績	実績
営業収益	100,000	+4.7%	+4,464	74,705	95,535
営業利益	2,700	+7.6%	+191	1,175	2,508
経常利益	2,600	+9.5%	+225	1,020	2,374
親会社株主に帰属する 当期純利益	460	+2.9%	+13	-156	446

AEON

2024年11月末 連結貸借対照表



資産の部（主要項目のみ）

(億円)

	2024/2	2024/11	前期末差
現預金	11,655	11,798	+142
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	19,574	19,771	+197
たな卸資産	6,252	6,792	+539
営業貸付金・ 銀行業における貸出金	32,228	36,623	+4,394
有形固定資産	34,149	35,663	+1,514
投資その他資産	11,057	11,245	+188
資産合計 (金融子会社除く)	129,408 (64,006)	137,821 (69,064)	+8,412 (+5,058)

資産の部（主要項目のみ）

(億円)

	2024/2	2024/11	前期末差
支払手形・買掛金	10,731	13,623	+2,891
有利子負債 (金融子会社除く)	24,027	25,860	+1,833
有利子負債 (金融子会社)	13,129	12,674	△454
銀行業における預金	45,332	48,923	+3,591
負債合計 (金融子会社除く)	108,536 (47,790)	117,645 (53,613)	+9,109 (+5,822)
株主資本	9,133	8,621	△512
純資産合計 (金融子会社除く)	20,872 (16,215)	20,175 (15,450)	△696 (△764)
負債・純資産合計 (金融子会社除く)	129,408 (64,006)	137,821 (69,064)	+8,412 (+5,058)

- 上場50周年記念配当実施
- 年間配当は、一株当たり40円。普通配当36円、記念配当4円

	2023年度	2024年度 (当初予想に修正なし)
第2四半期末	普通配当 18円	普通配当 18円 記念配当 2円
期末	普通配当 18円	普通配当 18円 記念配当 2円
合計	普通配当 36円	普通配当 36円 記念配当 4円

(億円, %)

事業	社名	営業収益		営業利益	
		実績	対前年同期 増減率	実績	対前年同期 増減
GMS	イオンリテールストア ※関東、近畿、名古屋の 旧ダイエーGMS	713	-4.0%	-21	+2
SM	ダイエー	2,311	+2.5%	-33	-16

予測に関する注意事項

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている 見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。